

## ポンド、8月利上げ観測が支え

- ◆ポンド、8月の追加利上げ期待の高まりで下値は堅いか
- ◆ポンド、賃金・インフレ関連指標に注目
- ◆加ドル、BOCの年内追加利上げ思惑で底堅い動きか

### 予想レンジ

ポンド円 145.00-151.00 円

加ドル円 83.00-87.50 円

### 7月16日週の展望

来週のポンドは6月の賃金やインフレ関連指標の結果が注目される。足もとでは8月2日のイングランド銀行（BOE）会合での利上げ期待が高まっており、ポンドの下値は堅いか。

来週は5月ILO失業率（3カ月）や平均週間賃金などの雇用指標、6月消費者物価指数（CPI）や生産者物価指数（PPI）などインフレ指標の発表が予定されている。4月ILO失業率（3カ月）は約43年ぶりの低水準となる4.2%を維持し、最近上昇基調だった平均週間賃金は+2.5%と前回からやや減速した。5月CPIは前年比で+2.4%と約1年ぶりの低水準となった4月から横ばい。

月次ベースの国内総生産（GDP）は今週発表され、5月は前月比+0.3%と、昨年11月以来の高い伸びとなった。6月も5月並みの結果となれば、4-6月期GDPは前期比+0.4%と前期の+0.2%から加速し、悪天候の影響もあり急ブレーキが掛かった1-3月期からの持ち直しを示唆したBOEの見通しと一致しそうだ。今月26日には4-6月期GDP速報値が発表される。5月の鉱工業生産はプラス予想に反して前月比-0.4%となり、製造業生産も+0.4%と市場予想に届かなかった。貿易収支は123.62億ポンドの赤字、対EUでは輸出が49.1%、輸入が56.0%となった。英経済のEU依存度は大きく、メイ英首相は来年3月のEU離脱後もEUと緊密な通商関係を維持する方針だ。

EU離脱に対するメイ首相の柔軟路線に反発し、デービス英欧州連合（EU）離脱担当相とジョンソン外相が相次いで辞任した。メイ政権はこれまで7人の閣僚が辞任したことになり、今回の離脱強硬派2人の辞任により、EU離脱交渉の不透明感は一段と高まった。首相信任投票を要請する動きは見られなかったが、メイ政権の基盤がさらに揺らぐ可能性がある。英政府はEU離脱方針を示す白書を公表した。その中では英銀行がEU市場への容易なアクセスを失う可能性などが指摘された。

加ドルは底堅い動きか。北米自由貿易協定（NAFTA）再交渉の不透明感やドル高基調の継続で上値が圧迫されているものの、加経済の楽観的な見通しや年内の追加利上げ思惑が加ドルの支えとなっている。カナダ中銀（BOC）は今週、市場予想通りに政策金利を1.50%に引き上げた。貿易摩擦の激化に懸念を示すも、段階的な追加利上げが正当化されると指摘した。BOCが先行きの加経済に対し、一段の利上げに耐えられるほど堅調であるとの明るい見通しを持っており、市場では年内の追加利上げ期待がくすぶっている。来週は5月小売売上高や6月CPIなどの発表が予定されている。

### 7月9日週の回顧

英PMIは良好な結果となったものの、ポンドドルは1.32ドル台、ポンド円は145円台を中心に上値の重い動き。6日に米国が中国に対し制裁関税を発動することが警戒される中、ドル/加ドルは1.31加ドル台、加ドル円は84円を挟んだ小動きで、加ドルの買い戻しが一服した。（了）